



Report on The 11TH Asia-Pacific Microscopic Dentistry Meeting(APM)

アジア環太平洋地域における顕微鏡歯科の発展と国際的な学術交流を目的として開催されている Asia-Pacific Microscopic Dentistry Meeting (以下APM)。

その第11回大会は、台湾・台北市・福華文教会館にて Dr.Eason Chen大会長のもと、盛大に開催された。(図1・2)

本大会には総勢177名が参加し、日本・台湾から、顕微鏡歯科を牽引するマイクロデンティストが一堂に会した。(図3)

会期を通じて、台湾の先生方による温かく行き届いたホスピタリティが随所に感じられ、国際学会でありながら非常に一体感のある雰囲気印象的であった。(図4)

昨年、第10回大会のテーマは“God is in the detail.”(神は細部に宿る)であった。

この思想を継承するかのように、今年掲げられたテーマが“Details make perfection, and perfection is not a detail.”(細部が完璧を生み出す。しかし、完璧は単なる細部の集まりではない。)である。

この言葉は、本大会全体を貫く明確な軸として、すべての講演およびデモンストレーションに色濃く反映されていた。

各演者の発表では、顕微鏡で記録した動画を多用する。それにより、慎重な器具操作や正確なビューワーク、次の一手を決める一瞬の判断といった、術者の細部にまで至る繊細な手技を参加者全員が動画を通して共有することができる。

治療の結果だけではなく、『そこに至る過程を可視化する』。このスタイルこそが、APMならではの大きな特徴の1つと言えるのではないだろうか。(図5)

以下に、各分野のスペシャリストによる発表内容の概要を報告する。

SESSION 1

司会:

Dr.Yumiko Amakawa／Dr.Sung-Hui Wang (図6)

Dr.Tadahiko Nakano (図7)

『Macro & Micro View Points in the Esthetic Dentistry』

Dr.Aki Shinozuka (図8)

From Detail to Harmony: Integrating Microscopy into Interdisciplinary Dental Care』

Dr. Noriaki Yoshihashi (図9)

『A Clinical Breakthrough in Autogenous Tooth Transplantation (ATT):Pulp and PDL Regeneration Using the NY System and Stem Cells』

SESSION 2

司会:

Dr.Chi-Man Wong / Dr.Yi-Hsiang Su

Dr. Akihiro Ogushi

『Esthetic Rehabilitation of the Anterior Zone:An Interdisciplinary Microvision Approach』

Dr. Chien-Hsin Yeh

『Fractured Teeth Preservation』

Dr. Yen-Un Chen

『Begin with the End in Mind – Microscopically Enhanced Endodontics』

Dr. Katsuyuki Atsumi (図10)

『Lesions: The Art and the Science』

SESSION 3

司会: Dr.Fumihisa Hayashi / Chienh-Sing Wang (図11)

DH. Noriko Takahashi (図12)

『A Dental Hygienist's Eye Through the Lens』

Dr. Duncan Ken-Shih Hsu

『Microscope-Assisted Dental Procedures』

このセッションでは、高橋規子 先生(フリーランス歯科衛生士・高田歯科)によりOHI・SRP時のポジショニング、ビューワークについて非常に具体的かつ再現性の高いLIVE DEMOが行われた。

確実に捉えながら処置を行うワーキングビューの構築は、“Details make perfection,and perfection is not a detail.”、そのまま臨床に落とし込んだデモンストレーションであった。(図13)

台湾では制度上、歯科衛生士が存在せず、歯周基本治療やメンテナンスも歯科医師が担っている。そのため、高橋先生の手技や説明は会場全体が文字通り釘付けとなっていたのが非常に印象的であっ

た。(図14)

SESSION 4

座長: Dr.Fumiyo Yamaguchi / 司会: Dr.Steve Sheng-Peng Wang (図15)

Dr. Takenori Uto (図16)

『Preprosthetic Procedures for Ovate Pontic Formation Combined with Connective Tissue Grafting』

Dr. Keishi Adachi (図17)

『A Case Report on Black Triangle Closure after Orthodontic Treatment Using the VISTA and IPAC Techniques』

Dr. Nozomi Maniwa (図18)

『Recovery of Peri-Implant Soft Tissue Deficiency Using Microscope』

Dr. Michael Liu

『Case Report: Interdental Papilla Reconstruction with IPAC Technique Using Microscope』

SESSION 5

司会: Dr.Chia-Cheng Lu

Dr. Hao-Ting Wang

『Restorative Workflow for Severely Damaged Posterior Teeth』

Dr. Yi-Chia Kuo

『The FIRST Principle: Preparation Design in Bonded Ceramic Restorations』

大会終盤には、JAMD(日本顕微鏡歯科学会)副会長である 小林平先生より第12回 Asia-Pacific Microscopic Dentistry Meeting (APM)は、2026年12月13日(日)、東京・日本歯科大学 富士見ホールにて開催予定であることが告知され、閉幕となった。(図19)

鈴木真名先生が発足したAPMがアジア環太平洋のマイクロデンティストリーの発展と普及に大きく貢献していることを肌で感じることができ、次回の東京大会も非常に待ち遠しい気持ちである。(図20)



図1
第11回Asia-Pacific Microscopic Dentistry Meeting



図2
大会長Dr.Eason Chen



図3
第11回大会に参加された日本と台湾の先生方



図4
本大会においてきめ細やかなおもてなしをしていた
だいた台湾の先生方



図5
繊細な手技を参加者全員が動画を通して共有



図6
SESSION 1 司会を務めるDr.Yumiko Amakawa



図7
Dr. Tadahiko Nakano



図8
Dr. Aki Shinozuka



図9
Dr. Noriaki Yoshihashi



図10
Dr. Katsuyuki Atsumi



図11
SESSION 3 司会を務めるDr.Fumihisa Hayashi



図12
DH. Noriko Takahashi



図13
具体的かつ再現性の高いライブデモンストレーション



図14
会場全体が文字通り釘付けとなっていた



図15
SESSION 4 座長を務めるDr.Fumiyo Yamaguchi



図16
Dr. Takenori Uto



図17
Dr. Keishi Adachi



図18
Dr. Nozomi Maniwa



図19
JAMD副会長 Dr.Taira Kobayashi



図20
Dr.Masana Suzukiと台湾の先生方

文責：
Yoshihiro Fujimoto,D.D.S.
Associate Dentist,Uto Dental Clinic (Shizuoka,Japan)